

# KIT INTERNATIONAL JOURNAL

創刊号

2005 / Spring

学長ごあいさつ

KIT International Journalの発刊にあたって

研究室だより

ネットワーク高分子分野で、国際的な協力体制を築く

季節のたより

京のさくら

人物往来

留学の意味を探して

トピックス

国際交流センター  
国際学術交流クラブ



京都工芸繊維大学

京都工芸繊維大学 国際交流センター  
〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町1  
Tel: +81-75-724-7128 Fax: +81-75-724-7710  
E-mail: ab7129c@jim.kit.ac.jp  
<http://www.kit.ac.jp/>  
[http://www.cis.kit.ac.jp/gaku\\_k/japanese/index.html](http://www.cis.kit.ac.jp/gaku_k/japanese/index.html)

※禁無断転載

## KIT International Journalの 発刊にあたって



学長  
江島 義道  
EJIMA, Yoshimichi

本学は、二〇〇四年四月から国立大学法人となりまし  
た。再出発にあたり、さまざまな組織改革を行うことも  
に、「感性の涵養を重視する国際的工科系大学」を目指  
す方針を明確にしました。KIT International Journal  
の発刊はこの方針に基づくもので、国際的な学術交流や  
研究成果を記録として残すとともに、交流の継続と発展  
に寄与できるメディアに育つことを願っています。

ご存知のように本学は、一〇〇有余年におよぶその歴  
史を遡ると、工芸と蚕業という古都京都に根ざした産業  
の振興と近代化に貢献することを使命として開校してい  
ます。このことが、単に科学技術に関する教育と研究を  
行うだけでなく、美意識や匠の技といった人間的な側面  
の研究も同時に進め、知と美の融合を目指すという工科  
系大学としては極めてユニークな学風を育てる淵源とな  
っています。私たちは、この成果を広く世界に問いかけ、  
学術文化の交流に役立ちたいと考え、積極的な行動を起  
しています。具体的には、二〇〇四年に京都工芸繊維大  
学国際学術交流クラブを立ち上げ、さらに国際交流セン  
ターを開設しました。国際学術交流クラブは、国際交流  
への意識の高い学生、卒業生、教員を組織することによ  
って、交流の輪を広げていただくことを意図しています。  
また、国際交流センターには、教員の交流促進部門、学  
生の交流促進部門、そして交流施設および広報部門を設  
け、本学の国際交流の推進に寄与することを期待してい  
ます。

二〇〇五年一月現在、本学と学術交流、学生交流の協

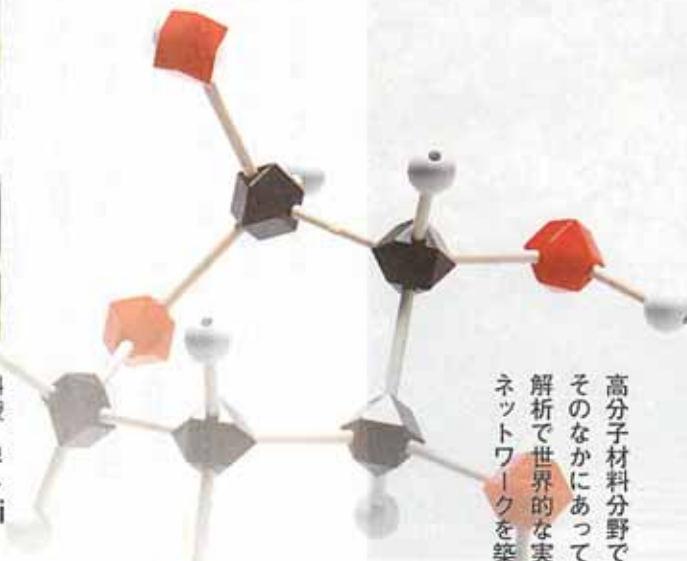
定を結ぶ教育機関は世界四〇機関、受け入れている留学  
生は学部、大学院、研究生を合わせると一五六人になり  
ます。数としては決して多いとはいえませんが、交流の  
質という点では適正な規模ではないでしょうか。私は二  
〇〇五年の年頭にあたり、ドイツの経済学者E・F・シ  
ューマツハの「スモール・イズ・ビューティフル」を引  
用して、あいさつを述べさせていただきました。

彼はその主旨の中で、物質至上主義を批判し、大き過  
ぎる組織は人間性の喪失につながることを主張していま  
す。彼の視点に立つと、本学の規模は教育機関としては  
小さいことの良さが生かせる規模であるし、留学生数も  
その規模にふさわしいのではないかと思います。協定や  
留学生の交換は、あくまで交流のきっかけです。それを  
きっかけに、交流を継続し深めていくには、目配りの効  
く適正な規模で行うべきです。前述しましたように、本  
学には知と美の融合という独自の学術風土があります。  
そして実学を重視するカリキュラムがあります。今後の  
構想としては、地元京都の産業界の理解と協力を得て、  
留学生にモノづくりの現場を体験してもらえ、環境も整  
えていきたいと考えています。こうした体験を通して留  
学生諸君には、多くの日本人や世界各国からの留学生が  
学ぶこの国際的な学術都市京都で、国境や文化、言語を  
超えた友情を育んでいただくことを願っています。

# ネットワーク高分子分野で、

## 国際的な協力体制を築く。

高分子材料分野では、新素材の研究開発が世界中で活発に行われています。そのなかにあつて本学の材料物理化学研究室は、ネットワーク高分子の構造解析で世界的な実績をあげるとともに、その高い評価を背景にして国際的なネットワークを築き上げてきました。



工芸学部 物質工学科  
材料物理化学研究室 教授

浦川 宏  
URAKAWA, Hiroshi

工芸学部物質工学科に属する私どもの研究室は、前任者である梶原莞爾教授の時代から本学のなかでもかなり早い時期より国際的な研究ネットワークづくりに取り組んできました。ドイツ、イギリス、イタリア、チェコ、ノルウェイ、ベトナムなどの大学と共同研究を進めてきております。こうした関係が生まれた要因は、私ども研究室がネットワーク高分子の構造解析において、放射光を利用した小角X線散乱法など世界的に極めてユニークな構造解析手法を手掛けてきたからです。ネットワーク構造を持つゲルや樹脂の研究は世界的にも盛んであり、私どもの研究室は、小角X線散乱法を用いた構造を、分子レベルの大きさを三次元可視化するというかたちで研究の一翼を担っています。この国際ネットワークを生かした研究プロジェクトは大きく分けるとふたつあります。ひとつはモデルネットワーク(ネットワーク高分子の理想的構造)の研究で、もうひとつは多糖類等の物理ゲル

の構造解析です。

一方、本学のルーツは、古都京都の伝統産業に根ざした工芸と繊維の研究にあります。私どもの研究室も以前は色染工芸学科に所属しておりました。こうした本学の歴史と我々の小角X線散乱の研究の接点から、染色をもう一度、新しい視点で見直そうとしています。日本のもっとも古い染色技法に天然藍染があります。工業的にはインディゴ染色といわれるものです。しかし、天然藍と化学染料を使ったインディゴ染色を比べると、その風合いは異なります。天然藍を人間は好ましいと感じています。小角X線散乱で染料水溶液の様子を観察すれば、その差異を解析することができるのではとの発想の下での研究です。その風合いから優しいと感じる草木染めは、世界中にあります。しかしながら、調べてみると東南アジアなどで行われていた伝統的な草木染めは、今や絶滅状態でほとんどが合成染料を用いる染色に置き変わっていったのです。日本の藍染は伝統工芸として今に伝わっていますが、長い藍染の歴史の中で、その技法は多くの匠たちによって磨かれてきました。天然藍の藍玉(植物染料)を作る際の、水の打ち方ひとつにも絶妙の技から織りなされて、藍特有の染色美に結びついています。藍染の研究をしつつ、日本の伝統的な染色技術を研究するとともに、世界の民族が育もうとした美を再現する、そんな国際的な研究の構想を持っています。この文章を読んだ、情報お持ちの方がいらっしゃれば、ぜひご一報いただきたいものです。

# 京のさくら

日本の春は、桜前線とともにやってきます。桜の木々に淡いピンクの花が咲きほころび、まるで冬の眠りから覚めたように、あたりの景色もきらきらと輝き出します。待っていた春の訪れに、人々はお花見の宴を楽しみます。

桜は、古都京都によく似合います。御所、御室、岡崎公園など、桜のスポットも数えきれないほどあります。そのそれぞれが千年の歴史に彩られた古都らしく、独自の雰囲気でも私たちに迎えてくれます。朱塗りの建物と鮮やかさを競うように咲く平安神宮の桜。春霞の中に幻想的に浮かび上がる鴨川の桜。料亭のあかりを背景に優美に咲き誇る祇園の桜。清水寺などでは、ライトアップされた夜桜を楽しむこともできます。



上賀茂神社の桜



高野川から比叡山を望む



岡崎疎水の桜

真正極楽寺の桜（真如堂）

京都工芸繊維大学の周辺にはさくら名所もたくさんあります。松ヶ崎キャンパスには近くに植物園が、そして少し足をのばせば、鴨川や高野川の桜、真正極楽寺（真如堂）の桜が訪れを待っています。一方、嵯峨キャンパスの近くには、御室・仁和寺があります。世界遺産に指定された名刹をバックに桜は、京都でも屈指の絶景を見せてくれます。

## 留学の意味を探して



嶺南大学校 繊維ファッション学部 教授

クウ カン  
眞 剛  
KOO, Kang

一九八八年夏季オリ  
ンピックの開催国であ  
ることで韓国、特にソ  
ウル周辺には建設の力  
動的な音が聞こえてく  
る一方で、全国的な韓  
国の政権に向かって若  
者たちの闘争が盛んにな  
っている一九八七年  
二月に私は他の人より  
遅く留学生生活を始めま  
した。

初めに私がぶつかつた日本での壁は日本語

でした。私は日本語が全然分からなかったため、指導教授との討論も自由にできず、最小限の英語だけで通じる程度でありました。研究生の生活が始まり日本語の勉強と生活の適応に全力を尽くしました。その時、私にはひとつの自分なりの約束がありました。それは私が結婚したばかりの家内を韓国に残し、ひとりて渡日した目的を正確に守ることであり、それは日本に來た以上日本の学問と日本という国を学ぶことでありました。その時まで私にとって日本という国は西欧の国と比べて排他的であり、消極的な国でありました。しかし、これは私が乗り越えないといけないことであり、自分が日本化されるべきであると思いました。その時期から私は研究室の仲間になるために全力を尽くしていききました。まず、先生が席を離れないと私もどんなことがあっても席を離れないことから始めました。その中で時間は川のようにながれ、修士課程と博士課程を経ていききました。また修士課程にも大学の助力で学費を免除され、またロータリークラブの米山記念奨学生にも選ばれており、博士課程では文部省の奨学生にも選ばれました。今考えてみますと私は非常に幸運であったと思われま。そのような良い縁は私が卒業した大学に先生として戻るように韓国に帰っても続きました。

今年で私が韓国へ帰って十二年目になります。去年は京都工芸繊維大学と嶺南大学校の間でも大事な年でした。もちろん両大学の間には交流協定を締結したこと

もその中のひとつでありますが、韓国でも日本でも大学の生きていく方式によって大学の未来がかかっているからであります。しかし、両大学の優秀な方々が最適な道をリードしてくれると信じており、両国での両大学はそれぞれ重要な位置を占めると信じております。この機会を借りまして去年十二月に両大学の間には結ばれた交流協定を可能にしてくださいと京都工芸繊維大学の学長を始めとする方々と大学の担当者にも嶺南大学校の総長に代わり心から感謝のお言葉を申し上げます。

苦しい昔がありましたので、今の私がいるのではないかとという人生の平凡な原理を教えてくださいました。日本の留学生生活は今までも韓国での私の力になって私を支えています。今ではそのような生活はできないかとも思われますが、そのときがあったことを忘れずに生きていきたいと思えます。

一緒に勉強をした数多くの外国の留学生達も今それぞれ自分の国で、その社会の中でまた自分の人生において成功した暮らしをしていると信じております。韓国の場合は去年から京都工芸繊維大学の同窓会をつくり年二回の集まりを始めました。

私も最近の韓国と日本の友好的な関係が続く、前向きになって伸び広がるように民間外交を充実にしていくことを自身に誓います。韓国と日本は近い国でありながら遠い国ではなく、いつも近い国であることを信じます。

## 国際交流センター

国際交流センターは、本学の長期ビジョンのテーマである「国際的工科大学」の実現を目指して、2004年6月に設置されました。京都工芸繊維大学の、研究者交流や学生交流などの全ての国際交流に関する業務を担当しています。学術交流部門、学生交流部門、交流施設及び広報部門の三つの部門が置かれ、それぞれ業務を分担して、国際交流の推進に努めています。センター長、副センター長、主幹を始めとした教員及び国際企画課長をメンバーとして構成されており、センターに関する事務は、全て国際企画課が担当しています。

### <主なセンター構成員>

センター長 切刀 滋：副学長  
副センター長 古山正雄：副学長  
主 幹 濱田泰以：大学院工芸科学研究科教授

フランス共和国からの訪問団とともに

## 京都工芸繊維大学国際学術交流クラブ

国際社会の学術的な発展と科学技術の振興に、京都工芸繊維大学が有効に貢献できるように組織された世界的なネットワークです。

2004年3月に本学の卒業及び在学外国人留学生、元・現国際訪問研究員（元招へい外国人学者）、国際交流の進展に高い意識と強い意欲を有する日本人の卒業生及び在學生、並びに教職員等により組織されました。

セミナーの開催や「KIT International Journal」をメンバーにお送りするなどの活動を行っています。趣旨に賛同される広範な方々の御加入をお待ちしています。事務は国際企画課が担当しています。入会のお申し込みについての詳細は、本学の国際企画課ホームページを御覧ください。

[http://www.cis.kit.ac.jp/~gaku\\_k/japanese/index.html](http://www.cis.kit.ac.jp/~gaku_k/japanese/index.html)

## 国際交流に関する連絡先

国際企画課長 吉井 勉

Phone : +81-75-724-7127

E-mail : ab7127@jim.kit.ac.jp

主査 市来裕文

Phone : +81-75-724-7128

E-mail : ab7128@jim.kit.ac.jp

### 国際第一係

外国の大学との学術交流協定の締結、国際研究集会及びセミナーの開催、研究者交流、国際交流に係わる広報活動、その他の国際学術交流に関する事項を担当しています。

Phone : +81-75-724-7129

E-mail : ab7129a@jim.kit.ac.jp

### 国際第二係

次の事項、その他の外国人留学生及び海外留学に関する事項を担当しています。

- ◆入国手続き
- ◆外国人留学生の奨学金・経済支援制度、宿舍、チューター
- ◆外国人留学生の学修相談
- ◆海外留学相談

Phone : +81-75-724-7126

E-mail : ab7131a@jim.kit.ac.jp



国際企画課一同が、皆様のコンタクトをお待ちしています  
Come in and see us!